



松本 寅之介

インフラエンジニア／東京勤務  
基盤インフラの設計・運用、セキュリティ系ソリューションの導入等を担当。



徳永 聖汰

システムエンジニア／福岡勤務  
九州エリアの金融機関に向けたローン審査・ローンの申し込みシステムの導入・保守を担当。



安井 雅也

システムエンジニア／東京勤務  
ネットバンクを中心に、住宅ローン審査システム、債権管理システム等の導入・保守を担当。



大迫 朱美

システムエンジニア／大阪勤務  
関西・四国エリアの金融機関に向けたローンを中心とした審査支援システムの導入・保守を担当。



大熊 勝平

システムエンジニア／沖縄勤務  
沖縄県内の自治体に向けて滞納管理システムや電話催告システムの導入・保守を担当。

## アイティフォー 若手エンジニア5人による座談会

### お客様に寄り添い、地域社会に貢献する役割を常に意識したシステム開発

#### プログラミングだけでは終わらない アイティフォーのエンジニア

**安井:**今日は、さまざまな地域からエンジニアだけが集まりましたね。アイティフォーのエンジニアとして、今の仕事に何を感じ、どのように向き合っているのかを聞ける良い機会だと思い、楽しみにしてきました。

**松本:**そうですね。皆さんもキャリアを重ねるにつれて、業務の幅が広がると同時にエンジニアとしての視野も広がってきたのではないかと思います。皆さんは仕事をする上で、アイティフォーの特徴や、われわれエンジニアの強みを

意識したことはありますか？

**徳永:**私は経験者採用でアイティフォーに入社して4年目になります。前職でもシステムエンジニア(SE)だったのですが、アイティフォーに入社してSEの概念が大きく変わりました。というのも、前職ではプログラムを組み立てることが主な業務で、当時はお客様の要望をシステムに落とし込む際に、プログラミングの視点で課題を解決することしか考えが及びませんでした。現在私は主に九州エリアの金融機関を担当していますが、アイティフォーのエンジニアはお客様の業務内容にまでしっかり入り込んで、本当に求められるシステムは何かを突き詰めて

考える。そこが大きな特徴であり、強みだと感じています。

**大熊:**同感です。私は沖縄エリアで、主に地方自治体への滞納管理システムの導入と保守を担当しています。例えば自治体は税金を滞納した人に対して段階的にアクションを起こします。具体的には滞納状況の管理に始まり、必要に応じて文書や電話で催告を行うなどです。これらの業務はセンシティブな部分もあるので、一連の業務の流れを把握することで、最適なシステム構築や業務改善の提案ができると考えています。

**大迫:**当社の債権管理システムは、地方銀行に

おいてナンバー1のシェアを獲得していますよね。これは長年の経験と高い専門知識にエンジニアリングの技術が加わった成果だと思います。

私も関西・四国エリアの金融機関を担当していて、上司や先輩から教わることも多いのですが、皆さん本当に金融の業務を深く理解しているなと日々実感しています。

**安井:**元銀行員の方が当社に入社していることも強みですね。そうした経歴を持った社員の方からノウハウを吸収し、それをシステムやパッケージに還元できるサイクルがあります。

それから、SEはいわゆるプログラミングの専

## アイティフォー 若手エンジニア5人による座談会



プログラミングだけでなく、お客様の業務に関して精通していることが強み  
安井(東京・システムエンジニア)

門集団と思われがちですが、アイティフォーのSEは違いますよね。私はシステム開発を行う際は「手段」と「目的」を間違えないように心掛けています。目的はお客様の課題解決であり、目的を達成するための手段としてシステム開発を行っています。私も数年前まではシステム開発を行うことが「目的」であり、ゴールと認識していました。それだとお客様の課題は解決せず、多くの場合、結局使いづらいシステムになってしまいます。その意識転換ができたとき、自分がアイティフォーのSEになれたと思ったことを覚えています。

**松本:** 私はインフラエンジニアなので、皆さんと少し異なる視点になりますが、インフラエンジニアを含めSEは学び続けることが求められる職種だと思っています。

特に私が担当する基盤インフラは、お客様の

業種の幅が広いことが特徴です。さまざまな仕様やそれまで扱ったことのないシステムに触れることも多々あり、バージョンがアップデートしてすべてのコマンドに修正が加わり、最初から勉強し直すこともあります。とてもタフな半面、それら一つ一つを学んで、実際に業務に活かせたときに、達成感を味わうことができます。

学びという面では、会社全体で仕事をしながら常にスキルを高めようという文化が醸成されていると感じます。勉強会や学習会なども頻繁に行われていることも重要ですね。

**徳永:** プログラミングで分からないことがあったとき、チャットツールなどを使って疑問を投稿すると、部署や拠点を越えてすぐに誰かが対応策を教えてくださいますよね。普段から日常会話のように、皆で情報を共有しながらスキルアップを図っていこうという社風があるのも、アイティフォーのSEの強みの一つだと思います。

### お客様の視点に立って考え、ご要望の本質を引き出す努力を

**安井:** 皆さんの話をうかがっていて、お客様の業務内容をきちんと理解しながらシステム開発を行うこと、そして新しい技術を追い求める姿勢が大切だということを改めて確認できました。

**大熊:** もう一つ、お客様が考えていることや望

まれていることを、きちんと聞き出すことも大切だと思っています。「〇〇のデータを抽出したいのだけれど」といったお問い合わせを頂くのですが、よく話を聞いてみると実際は異なるデータが必要だということもありますね。お客様に言われたことだけに対応していると、結果的に信頼関係が築けなくなる。

**安井:** 最近、お客様から「DXをやりたい」と言われることが度々あります。そのDXとは、UX (User Experience) の改善を求めているのか、それともUI (User Interface) の改善を求めているのか、あるいはペーパーレスのことなのか。実は現状のシステムを少し改修するだけだったり、なんてこともあるので、私も常にお客様から潜在的な要件を引き出すことに注力するようにしています。

**松本:** シンプルな物言いになりますが、お客様視点に立ってヒアリングすることですね。皆さんの話を聞いていて、それが自然にできているのは、アイティフォーのエンジニアに経営理念である「寄り添うチカラ」の意識が根付いているからなのだと実感しています。

加えてインフラエンジニアとしては、「高頻度の連絡」も寄り添うチカラに通じると考えています。私はセキュリティ系のソリューションも手がけているので、導入したシステムに万が一ウィルスを検知した場合などは、すぐにお客様

と連絡を取り、詳細に状況を把握しなくてはなりません。そのためには普段からの密なコミュニケーションと情報共有が欠かせないのです。

**徳永:** なるほど、現場の緊張感が想像できる話ですね。

今のような緊急時の話ではありませんが、私もお客様からの問い合わせに対しての「対応のスピード」が寄り添うチカラだと意識しています。お客様の業務に追加や変更が発生し、導入したシステムでは対応できなくなるケースが頻繁にあります。しかしその都度全面的にシステムを改修するとなると、時間もコストもかかるので、例えば現行システムの中で応用的な操作をすることで解決できるのではないかと、といった提案をすることもあります。どのような問い合わせを受けても、まず、解決策を素早く示すことも、お客様に寄り添うことだと思っています。



会社全体で後輩を支えていきたい。  
そのために自分は率先したい  
徳永(福岡・システムエンジニア)

## アイティフォー 若手エンジニア5人による座談会



システム導入が業務の効率化につながり、  
人手不足を解消します  
大迫(大阪・システムエンジニア)

**大迫:** 私は直接システムに関連していないところでも、「寄り添うチカラ」を実践しています。

先日、システムの導入先のお客様から「パソコンのキーボードが動かなくなりました!」とお電話を頂いたことがありました。もちろん当社が対応する内容ではないのですが、私の上司も以前、別のお客様から担当外のお問い合わせを受けた際に、とても丁寧に対応していて、「お応えできることにはしっかり対応した方が、お客様も喜ばれるだろう」と言って頂いたことが強く印象に残っていたのです。そこで私も「ではまず、USBを抜き差ししてみてください」「他のキーボードと入れ替えてみてください」などいろいろ原因を探りながら対応しました。結局「ああ、キーボードにホチキスの芯が挟まっていたわ。動くようになりました、ありがとうございます」と、結果的にはよくあるオチで無事

解決しました(笑)。

でも、こうした小さな対応の積み重ねが信頼関係につながるのだなと実感しています。今ではそのお客様からは、システムに関するこちらからの提示に対して「大迫さんが言うなら」と、全幅の信頼を頂けるようになりました。

**安井:** お客様の困り事の解決方法は状況や内容によってさまざまですね。私は、お客様が他社システムベンダーの方と会話する際に困らないように、お客様に代わってシステム目線の要点や課題点を整理するようにしています。

**徳永:** お客様からの問い合わせが、他社のシステムについての疑問だったことはよくありますね。つい最近も、入力の際の文字数制限などお客様が気付きにくい細かい設定について、こちらで読み解いてご説明したことがあります。可能な限り想定できる要件をこちらでイメージして、お客様をサポートしていくようにしています。

### 高度なシステムの導入が、 地域貢献につながることを実感

**安井:** アイティフォーは創業以来、地域のお客様にシステムやサービスを提供してきた会社です。パーパスの中でも「地方創生による社会貢献」という言葉が盛り込まれていますが、エンジニアとして地域への貢献について皆さんが

日頃感じていることを、ぜひうかがってみたいと思っています。

**大熊:** そうですね。沖縄で仕事をしている中で意識しているのは、都市部との格差が生まれないようにすること。そこにアイティフォーの存在意義があると思っています。

沖縄の自治体に導入するシステムもベースは首都圏で使われているシステムと同じです。なので、首都圏の自治体が悩んでいる課題や解決手段などをエンジニア間で情報共有し、さらにお客様へ発信することで、システムの運用や職員の方のITスキルに格差が生まれないようにしています。

**徳永:** 私の担当する地方銀行のお客様も、基本的に国が決めたルールを守るためにシステムを導入することが多いので、九州独自のシステム開発を行うことは少ないです。こちらも首都圏と同様のシステムのため、地方銀行のITリテラシーを高めることには貢献できていると感じています。

**松本:** アイティフォーは以前、東京都の「中小企業サイバーセキュリティ対策強化サポート事業」を受託し、23区内の中小企業のセキュリティ対策ソフトの導入をサポートする機会がありました。近年はリモートワークの広がりもあり、ランサムウェアなどによる被害が多発しています。感染すると、データを持ち出された

り、暗号化されて使用できない状態にされたりと、企業運営に大きな打撃となります。元に戻すために、いわゆる身代金を要求されるなど、社会問題となっていてメディアで報道されることも少なくありません。しかし、実際に中小企業の経営層とお話すると、自社のセキュリティ体制に危機感を持っていない方が多いと感じました。特に東京は、そうした被害を受けやすいところなので、セキュリティへの意識を広めていきたいという、責任感が強くなっています。

それと、個人的には福岡で生まれ育ったため、九州の業務の動きは気になります。実際、福岡の案件に関わるがありますが、九州のインフラ担当の体制は東京に比べてまだ弱いので、福岡をサポートしてあげられたらと思っています。



被害をなくすために、お客様の  
セキュリティ意識を高めたい  
松本(東京・インフラエンジニア)



## アイティフォー 若手エンジニア5人による座談会



お客様が思っている本質を聞き出し、信頼関係を築くことが大切  
大熊（沖縄・システムエンジニア）

**大熊：**その点では、私は沖縄に移住してからアイティフォーに入社したのですが、お客様と接する中で沖縄への愛着が増していきました。沖縄愛と言えるかもしれません。お客様に貢献したい、沖縄の人を助けたいという思いは強くなりましたね。

**大迫：**どの地域でも同じだと思いますが、大阪でも人手不足は深刻です。私の担当している金融の審査支援システムでは、利用者が手書きで申込書に記入したものをAIに読ませて文字起こしをし、それを審査支援システムに取り込むことで、行員の方が入力する手間が省けます。これは単にその銀行の人生産性が上がるといった話で終わりではなく、手間が省けた分、接客等の他の業務に時間を振り分けることができ、その銀行を利用する地域のお客様の利便性が高まる。つまり結果的に地域へ貢

献しているのだと考えています。

### 交流を深めてノウハウを共有し、エンジニア全体のレベルアップを

**松本：**最近上司からは、「もう、若手じゃないかな」とよく言われます(笑)。

それもあるって、私自身エンジニアとしてこの先どうありたいかを考えるようになりました。少し大きな話をしますと、誰もがITリテラシーを高めることができれば、社会はより良い姿になると思っています。エンジニアはITに関してはプロですので、その意味でも今リテラシーが低い人にも、分かりやすい言葉で、少しずつでも広げていければと思っています。

**徳永：**私は、アイティフォー全体で後輩エンジニアを支えていけるようにしたいと思っています。エンジニアの世界では年齢は関係ありません。当社も新人が増えており、現状の体制では若手エンジニアを支える仕組みは十分ではなく、先ほど述べたような情報共有できるチャットツールなどもあるので、さまざまな場面で後輩たちをサポートし、成長を加速させていきたいですね。

**安井：**今、新しいパッケージの開発に取り組んでいます。これまでにない競争力の高いものを

目指しているため、競争力の高い他社システムとの連携を強化していく予定です。そうなくともこちらもアプリケーションの枠だけではなく、インフラの知識なども必要になります。これを機に、プロトコルやネットワークなども学んで、業務領域の幅を広げていきたい。それをアイティフォーの知見として蓄積・共有していければとも考えています。

**大迫：**共有という点では、アイティフォーは全国に拠点があるので、各拠点の人が各地に向き、それぞれの人の働き方を見て、学ぶことが当たり前になるようにすると、より働きがいのある会社になりますよね。ワーケーション

のような形でもいいなと思います。

**大熊：**私も同じように感じていました。最近、業務が属人化しているのではないかと思うことがあります。エンジニアはプロフェッショナルを目指すとどうしても専門性が高まり、その人しかできない仕事が出てくる場合があります。ノウハウをもっと共有して、皆がいろいろなシステムに携われるようにしたい。そこでは、きっと気付きや学ぶきっかけが生まれると思います。

**安井：**もっとエンジニアの交流を活性化させたいですね。お互いが切磋琢磨することで会社が成長し、地方創生にもつながると信じています。ぜひ、皆さん一緒に頑張っていきましょう。

